

連絡先

〈飼い主の情報〉

飼い主の氏名	
住 所	
電 話 番 号	
メモ・写真欄	
(飼い主さんとペットと一緒に写っている写真を貼りましょう) ※携帯電話等にも保存しておきましょう。	

〈かかりつけの動物病院〉

病 院 名	
電 話 番 号	
担 当 医 師	

問い合わせ先

江東区保健所 生活衛生課 生活衛生係
電話:03-3647-5844

〈令和6年3月発行〉

ペット用品の備蓄

ペットを飼育している飼い主は、災害からペットを守る準備と、責任を持って世話をする義務があります。

災害時は物資の流通が滞り、ペットフードや薬などの必要な物資の入手が困難になります。

また避難所には、ペット用品の備蓄は基本的にありません。飼い主の責任でそろえることになっています。

下記のチェックリストを参考に、現在準備されている防災グッズにペット用の必要物資が十分にあるか、もう一度確認してみてください。

災害はいつやってくるかわかりません。日ごろから準備をしておく事はとても大切です。

● ペット用持ち出し用品一例



● ペット用持ち出し用品チェックリスト

- ☐ 普段から食べているペットフードや飲み水（最低5日、できれば7日分以上）
- ☐ 療法食、薬
- ☐ ペット用食器類
- ☐ ペットシート、ウエットタオル
- ☐ リード、ハーネス
- ☐ ケージ、キャリーバッグ
- ☐ 毛布、ブランケット
- ☐ 飼い主への連絡先、ペットに関する情報
- ☐ ガムテープ、ビニール袋
- ☐ お気に入りのおもちゃ

※上記は一例です。
飼い主がペットに合った用品を準備してあげてください。



飼い主の心がけ

避難所では、飼い主同士で協力して動物の管理をすることになります。

全く知らない方と、災害時・避難所という特殊な状況下で、最初からコミュニケーションを図るのは大変です。

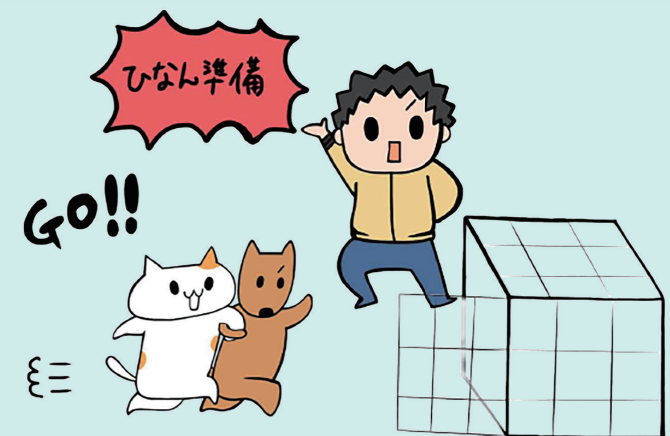
日ごろから地域や公園、動物病院の待合室で飼い主同士の交流を作りましょう。災害時に助け合える心強い味方となります。

避難先の確認

避難先を把握しておきましょう。

できれば実際にペットを連れて、自宅からのルートを確認しておきましょう。

また、親せきや友人など、複数の一時預け先を探しておくことも検討してください。



3 避難所での生活



- 避難所に同行できるペットは犬、猫、小動物（小鳥、小型げっ歯類など）です。
- 全ての避難所でペットの受け入れが可能な訳ではありません。また同行できるペットであっても、避難所の安全が確保出来ない状態のペットは、受け入れを断られることがあります。
- 原則として、避難者が生活するスペースとペットの飼育スペースは完全に分けて用意します。居室へのペットの持ち込みはできません。
- ペットの世話は、避難所のルールに従って飼い主自身が行います。飼い主同士が協力し合い、飼育環境を清潔に保つようにしましょう。
- 避難所には、動物が苦手な方やアレルギーを持った方がいます。不安感や不快感を与えないように注意し、動物が受け入れられやすい環境づくりを心掛けましょう。

防災情報江東区



ペットの

防災手帳



災害が起こると、人と同様にペットも被災します。

飼い主とペットが無事に災害を乗り切るためには、日ごろからの備えが欠かせません。

いざという時に慌てないために、ペットの防災について、考えてみましょう。

江 東 区

災害は突然やってきます！

万全の準備をしていてもいざその時が来ると、不安や恐怖で冷静に行動する事が難しくなります。

落ち着いて冷静に行動が出来るように、日ごろから考えておきましょう。



1 災害が発生したら

1 まずは自身の安全を確保しましょう。飼い主が無事でなければ、ペットを守ることができません。

2 普段はおとなしいペットでも、パニック状態になっている場合があります。落ち着いてペットの安全を確認しましょう。

3 自宅の被災状況や付近の安全を確認し、避難が必要かどうかを検討しましょう。

落ち着いて迅速に行動する事で、思わぬ二次災害を防ぐ事ができます。



避難の確認と種類

災害の情報を集め、避難が必要な場合は速やかに避難準備を始めます。

避難の必要がなく、自宅で安全に居られる場合は在宅避難を、避難が必要な場合は、できるだけペットと一緒に、より安全な場所へ避難しましょう（同行避難）。

避難の種類

在宅避難

自宅に倒壊や焼損、浸水、流出の危険性がない場合に、そのまま自宅で生活を送ること（自宅で生活する方がペットの負担は少なくなります）

同行避難※

災害の発生時に、飼い主が飼養しているペットを同行し、避難所等まで安全に避難すること
※避難所等で、人とペットが同一の空間で居住できることを意味するものではありません。

災害がどんな状況で発生しても対応できるよう、避難先をいくつか考えておきましょう。



2 日ごろからの備え

基本的なしつけ

避難先では、見知らぬ人達や他の動物と生活を共にしなければなりません。また、動物が苦手な方や、動物の毛等にアレルギーを持っている方もいます。

みんなに快く受け入れてもらえるよう、日ごろから、基本的なしつけをしておきましょう。

犬の場合

- 「待て」「伏せ」「おいで」等の基本的な号令に従う
- 首輪やハーネスを嫌がらない
- ケージやキャリーバッグを嫌がらずに、中で長い時間過ごせる
- 無駄吠えしない
- トイレは決められた場所でする
- 他人や他の動物を怖がったり攻撃的にならない



猫の場合

- 首輪を嫌がらない
- ケージやキャリーバッグを嫌がらず、中で長い時間過ごせる
- トイレは決められた場所でする
- 他人や他の動物を怖がらない
- できる限り室内飼養する（放し飼いによる逃走リスクの軽減）



健康管理

普段からペットの体を清潔に保ち、定期的にノミや外部寄生虫の駆除、狂犬病予防注射（犬）、その他ワクチン接種をおこないましょう。

不妊去勢手術を受けていれば、他の動物とのトラブルも防止できます。

避難所では、見ず知らずの人や他のペットとの接触が想定されます。

日ごろからペットの健康を保つようにしましょう。

ペットの為だけでなく、周囲の人達に安心感を与えることができます。

- ノミやダニの予防をする
- 各種ワクチンを接種する
- 犬は年に1回、狂犬病予防注射を受ける
- 定期的にシャンプーをし、体を清潔に保つ

普段の生活環境と全く異なる避難所での生活は、ペットにも普段以上のストレスが掛かります。飼い主が落ち着いてペット達をケアしてあげる事が大切です。



身元表示

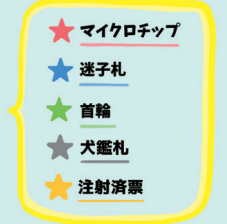
ペットには迷子札（犬の場合は鑑札・注射済票も）をつけておきましょう。迷子札や首輪等に飼い主の名前と連絡先を書いておけば、見つかる可能性が高くなります。

半永久的に識別可能な身元証明として、マイクロチップを入れておけば、なおさら確実です。

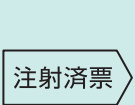
また、ペットの写真を複数枚持っていれば、探す際の手がかりになります。

マイクロチップとは

直径1.4mm×長さ8.2mm程度の円筒型をした器具です。マイクロチップには世界唯一の15桁の数字が記録されており、所有者の情報を登録することで、ペットが飼い主とはぐれてしまっても、身元確認することができます。



※狂犬病予防法により、飼い犬には鑑札と、狂犬病予防注射済票の装着が義務付けられています。



ペットの記録票

いざという時のために記録しておきましょう。この票を切り取って、ペットのケージやバッグに貼付けすることにより、ペットの表示札になります。

飼い主の名前			
ペットの名前			
動物種	犬・猫・（ ）		
性別	オス・メス	去勢・避妊	済・未
品種			
毛色			
鑑札番号(犬)			
マイクロチップ番号			
写真欄	(ペットの写真を貼りましょう)		